

2024年 5月 28日

和光大学地域連携研究センター
センター長 野中 浩一 殿

代表者氏名 高坂康雅

研究プロジェクトの名称【☐2023年度新規プロジェクト ☒ (2019) 年度からの継続プロジェクト】
* 上記にチェックしてください *

大学を中心とした地域の不登校支援ネットワークの構築

研究目的
本プロジェクトでは、大学を中心として、地域にいる不登校の子ども、不登校の子どもを抱える親・家庭、不登校の子どもの支援を行う者(教師、支援者など)、不登校など困難を抱える子どもの支援を行うことを志望している学生などが相互につながり、不登校に対する情報交流とより良い支援を行うための連携・協力を行うためのネットワークを構築することを目的とする。

プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員＝教、共同研究員＝共と記入してください。)

高坂康雅	教						

プロジェクトの概要 (480字以内) (学内外に向けた分かりやすい表記で記載をお願いします。)

本プロジェクトでは、主に以下の3つの活動を行った。

1つ目は、町田市不登校の親の会「いぐぶらす」を4回開催し、不登校の子をもつ親、かつて子どもが不登校であった親の交流・情報共有の場を設けた。

2つ目は、町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」を開催した。今回は「通信制高校ってどんなところ？」というテーマで、通信制高校及び技能連携校の教員に通信制高校の概要について講義を行ってもらった。また、通信制高校出身の大学生1名に、通信制高校での学びや生活について実体験を話してもらった。

3つ目は、町田市内でフリースクールや不登校の親の会などを主催している有志が集まり、「まちだ多様な学び場居場所ネットワーク」を設立し、「まちだ多様な学び場居場所MAP」を作成・配布した。「ネットワーク」では、これまでつながりの弱かった町田市内のフリースクールや不登校の親の会同士の連携を強めることができた。また、「MAP」では、フリースクールや不登校の親の会などの情報を求めている保護者の情報収集の負担を減らすだけでなく、学校の教師や福祉等の支援者が地域資源を知る機会となった。

研究活動の経過（800字以内）（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。）

①町田市不登校の親の会「いぐぷらす」の開催

2023年4月22日（土）、7月22日（土）、10月28日（土）、1月20日（土）の4回、13時30分から16時30分の3時間、ぽっぽ町田会議室にて開催した。各回10名程度の不登校の子をもつ保護者あるいはかつて子どもが不登校であった保護者が参加をし、活発な交流・情報交換の場となった。

②町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」

2023年10月28日（土）10時から12時にぽっぽ町田会議室にて開催した。「通信制高校ってどんなところ？」をテーマに、通信制高校・技能連携校の教員による講義を行った。また、通信制高校出身の大学生1名から通信制高校での学びや生活について報告があった。十数名が参加し、盛会に終わった。

③まちだ多様な学び場居場所ネットワークの設立及びまちだ多様な学び場居場所MAPの作成

2023年3月24日（金）にまちだ多様な学び場居場所ネットワークの立ち上げ集会を開催した。その後、発起人（広田悠大氏）、コーディネーター（大野理加氏）、高坂（顧問として）の3名が中心となり、町田市内のフリースクール、不登校の親の会、プレーパークなどと連絡・連携のもと、MAP作成を進めた。MAPデザインについては、和光大学表現学部芸術学科の木村史紅氏及び同学科2年次学生の協力を得て行われた。2024年2月に完成・印刷をし、2024年3月24日（日）にMAPお披露目会を行うとともに、町田市内の関係各所等で配布・設置を行った。

なお、2024年5月にはネットワークのHPが開設され、MAPをPDFでダウンロードできるようにもなっている。

研究成果の概要（1000字以内・写真が複数ある場合は、600～800字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

本プロジェクトでは、町田市不登校の親の会「いぐぷらす」を継続的に開催している。繰り返し参加する保護者がいる一方、一度参加したのみでそれ以降参加がない保護者もいる。親の会への参加を通して、これまで知らなかった情報が得られたり、同じ境遇の保護者と話すことができ励みになったという保護者も少なくない。今後は、参加者の感想などを把握し、親の会の効果を検証するとともに、親の会の在り方について検討することが求められる。

町田市不登校を学ぶ会は年1回の開催をしている。今回のテーマについては関心が高く、多くの参加者から、知れてよかったという感想が得られた。今後も継続して開催していく一方、テーマの設定については、参加者の意向も踏まえていくことが必要となる。

まちだ多様な学び場居場所ネットワークの設立は、本プロジェクトが掲げてきた「地域の不登校支援ネットワークの構築」を具現化したものであり、これまで以上に大きな成果であると考えている。不登校の子どもやその保護者を支援している施設・団体等をまとめたMAPは反響が大きく、その必要性の高さがうかがわれる。不登校の子どもをもつ保護者だけでなく、学校の教師や福祉関係の支援者、地域自治体関係者などからも問い合わせがあった。今後は2025年度版作成に向けて内容の充実等を図っていくとともに、MAPの存在をいかに周知していくかが課題となる。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等） （発行年は厳密に2022年4月～2023年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）
まちだ多様な学び場居場所ネットワークHP ※顧問として高坂の名が，協力団体として和光大学の名が記載されている https://www.machida-freeschool.com/